

司式 熊田雄二牧師

奏楽 豊島慶子姉妹

前奏
開会招詞

* 賛美歌 7:1 父の神よ夜は去りて
父の神よ夜は去りて 新たなる朝となりぬ
我らは今 御前に出でて 御名をあがむ アーメン

* 開会祈禱

罪の告白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。ア - メン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛美歌 7:2 万有の主よ御顔あおぐ
万有の主よ 御顔あおぐしもべらを強くなして
あまつ国の尽きぬ恵みを 得させたまえ アーメン

共同の祈禱 祈禱書7 キリストの二性一人格(カルケドン信条)

三位一体の第二位格である神の御子は、まことの永遠の神であり、み父と同質・同等でありながら、時満ちて、人間の性質を、それに属するすべての固有の性質や共通の弱さと共にとられ、し

かも罪はなかった。彼は、聖霊の力により、処女マリアの胎に彼女の本質をとって身ごもられた。

そこで、二つの十全で区別された性質、すなわち、神性と人性とが、変換・合成・混合することなく、一つの人格の中に、分離できないように結合されている。この人格は、まことの神またまことの人であり、しかも一人のキリスト、神と人との間の唯一の仲保者である。(ウエストミンスター信仰告白8章2節によるカルケドン信条：451年)

献 金 (黒)教会活動 (赤)東部中会の教育活動 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

《子どもプログラム 3階小礼拝堂 担当：森川真菜姉妹・那珂百合子姉妹》

聖書朗読 ルカ福音書13章10～17節(新約聖書134頁)

説教・祈祷 「アブラハムの娘」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 101:1 命の泉

命の泉にましますイエスよ 豊かに流れてうるおしたまえ
まこと言葉に渴きし我も 主の手にすがりて喜び進まん

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる父・御子・御霊の一人の御神に御栄え尽きざれ。 アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老(司会・受付 次週：門脇陽子長老)

本日 受付 1階：大日南隆夫・大日南信也執事 2階：藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音：森永翔馬

次週 受付 1階：森永美保・古澤迪子執事 2階：大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音：森川莞太

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

I また安息日問題

またまた安息日問題ですが、この段落の小見出しには、他の福音書の参照ヶ所がありません。ルカ福音書だけにある話です。再び安息日に病気をいやすお話ですが(6：6「手の萎えた人をいやす」)、お医者さんであるルカらしい福音書です。しかし、こういう奇跡を書き記すたびに、「こういう人がいたら医者は要らないなあ。失業だなあ」と思ったことでしょう。やはり、イエス様は神様です。

さて、また安息日問題というのは、安息日に医療という労働をしたということです。6章で(6：6~11)、手の萎えた人をいやすというところでお話しましたが、そもそも十戒の中でも、第四戒の安息日が特に重要視されるようになったのは、バビロン捕囚以後のことです。国が滅ぼされて、都のエルサレム神殿は破壊されました。多くの人バビロンに連れて行かれました。神殿礼拝ができなくなると、どこでもできるのは安息日に集まって聖書を読むことでした。

しかし、旧約時代最後の書物を読んでも、新約聖書に出てくるファリサイ派とかサドカイ派とかいうユダヤ教の派閥は出て来ません。イエス様誕生の新約時代まで500年くらいあるわけですが、その間に出来た派閥です。その500年の間に、ペルシャの王様にエルサレム神殿の再建を許可されて、神殿儀式を重視するサドカイ派と、律法と安息日を重視するファリサイ派という派閥が形成されたわけです。

きょうの場面は、エルサレム神殿ではなく、地方の会堂ですから、おもにファリサイ派です。イエス様は、ふだん、土曜日の安息日には町々のシナゴグという会堂に行かれました。そこは律法重視のファリサイ派の牙城でした。

ファリサイ派は、安息日には何もしてはならないという律法を守ろうとして、してはならないことのリストを細かく作りました。何もしてはならないといっても、一日中じっとしていることはできません。だから、「これくらいならいい」という決まりを細かく細かく作ったのです。

通常イエスを訴えようとしたのは、ファリサイ派の中でも律法学者たちです。彼らはイエスを訴える口実を見つけようと見張ります。彼らの律法解釈によれば、安息日の病気治療について、急病なら許されるが、急病でなければ許されないというものでした。したがって「18年も腰が曲がったまま」というのは以前からなので急病ではないと判定し、それから、学者らしく議論を始めます。

ところが、きょうのところは律法学者ではなく、いばった「会堂長」でした。会堂長はいきなり腹を立てて言いました。「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない。」

II アブラハムの娘

それに対してイエス様は言われました。

15節「偽善者たちよ、あなたたちは誰でも、安息日にも牛や口バを飼い葉おけから解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。この女はアブラハムの娘なのに、18年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

安息日であっても、人間は食べ、家畜にも餌をやります。牛や口バであっても、飼い葉おけで餌を食べたらのが渴きます。飼い主も水分を与える必要があることを知ってい

ます。だから、あなたがたは「飼い葉おけから解いて水を飲ませに引いて行く」という、牧畜労働をするのではないか、とイエス様は言われました。牛や口バでも束縛から解いてやるのではないか。

なおさら、この人は人間である。しかも「アブラハムの娘」なのである。18年もの束縛から解いてやるのは当然ではないか。

「こう言われると、反対者たちは皆恥じ入ったが、群衆はこぞって、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ」のです。律法学者や会堂長はあまりにも律法の間からかけ離れていることを指摘されて恥じ入りましたが、群衆の自然な感情は病気が治ったことを共に喜ぶものでした。18年もの病気が癒されたことを、一緒に喜ばない方が異常でした。

「アブラハムの娘」とは、アブラハムの実の娘ということではないのはもちろんです。アブラハムはイエス様の時代から2000年前の人だからです。「アブラハムの娘」とは、約束の子孫、「契約の子」なのだということです。アブラハム契約の子です。子供が一人もいなかったアブラハムに、主なる神は約束されました。「あなたの子孫は夜空に輝く星の数ほど多くなる。浜辺の砂ほど多くなる。」

そして、やっと一人生まれた幼な子イサクを「いけにえとして献げよ」と言われました。しかし、いけにえとして献げる瞬間、いけにえの羊が現れ、イサクの身代わりとなりました。それは、やがて、神の独り子がいけにえとして献げられることを意味していました。ですから、「アブラハムの娘」にはキリストの命がかかっているほど尊い命なのです。

今、私たちは、イエス・キリストを信じるなら、キリストの命がかかっているほど尊い命とされます。「アブラハムの息子、アブラハムの娘」と言われます。私たちは夜空の星を見上げると、それが世界中の教会で起こってきたこと、起こっていることを確認することができます。

上福岡教会でも60年間、「アブラハムの息子、アブラハムの娘」が生まれてきたことを確認することができます。コロナの中で召された命も、アブラハム契約の星として輝いていることを共に喜びましょう。